


<p>学校教育目標 自ら輝け 夢をつかめ <笑顔・感動 はつらつ植水></p>	<p>学校だより</p> <p>瑞穂</p> 	<p>令和2年度7月号 令和2年7月1日発行 さいたま市立植水中学校</p>
---	---	--

ビートルズが54年前に願ったこと

校長 茂木^{もぎ}里^{のり}仁^{ひと}

梅雨の蒸暑さの中、1学期最後の月となりました。

新型コロナウイルス拡散防止のため、1日から分散登校があり、青少年育成植水地区会の皆様に登下校の見守りをしていただき、ありがとうございます。また、15日から生徒全員揃っての授業再開となり、学校に生徒の声と活気が少しずつ戻り始めました。

先日生徒にこんな話をしました。今回の事態は、世界中のだれにとっても大きな試練です。その不安は人種や社会的地位を超えて広がっています。自分さえよければ自分の国さえよければといった考えは通用しません。だからこそ問われます。自分の頭で考えること。他者を思い、想像すること。偏った情報に惑わされないこと。簡単に正解を求めないこと。

この臨時休校中、大変さみしい思いをしたことでしょうか。でも、こういう時だからこそできることがあるはずです。数十年たっても君たちが中学生であった2020年という年は語り継がれることでしょう。その時の自分は何をして何を考えていたか。必ず一緒に思い出されるはずですが、大変なことです。自分と向き合う機会としてください。決して無駄な時間とはなりません。

また、過日の放送生徒会朝礼では、生徒会長 石井康敬くんの話や新入生代表の並木朱里さんが入学式で行う誓いの言葉を読み上げ、それぞれ中学校生活に向かう前向きな姿勢を力強い言葉で話してくれました。今後も、一人ひとりが、新型コロナ感染拡大防止に努め、待ち望んでいた学校での生活の1時間1時間を大切に、頑張っていきましょう。先生方も生徒や保護者の皆さんに寄り添い、一人ひとりを大切に努めてまいります。何か悩みや不安があったら是非相談してください。

さて、54年前の6月下旬にあった話をします。1966年6月30日、7月1日、2日。

「ザ・ビートルズ」というイギリスのバンドの公演が日本武道館で行われました。その時、私は5歳。残念ながら、ビートルズには全く無関心な子どもでした。しかし、今になって、54年前の出来事を知り、思うところがあります。例えば、ビートルズ4人の警備に要した警官動員数は、約8500人という記録が残っています。先の伊勢志摩サミットの警備数は約2万人でした。この警備数を「首脳一人当たり」で見ればほぼ同数の警備体制です。イギリスから来た4人のロックバンドに対してここまで厳重な警備体制をとったのは驚きです。ある学校では、「ビートルズの公演には絶対に行かないように」と先生に厳しく指導された生徒もいたそうです。しかし、今では、ビートルズの曲は中学校・高等学校の全ての音楽の教科書に載っています。また、演奏会場となった日本武道館は、「伝統的な武道の精神に反するビートルズには使わせない」という対応でした。このことについてビートルズのポール・マッカートニーは記者会見で、「僕たちは、日本の武道団が英国の王立劇場に出演しても、伝統を汚されたとは思いません」と回答しています。「自国の伝統」を大切にするとともに「他国の文化」を重んじた機知に富んだ発言でした。同じ記者会見で「あなたたちは富と名声を得たけれど、次に欲しいものは何ですか？」と聞かれたビートルズのジョン・レノンは、「PEACE」（平和）と答えましたが、記者たちはジョークだと思い笑いました。

あれから54年、今もなお、世界中が平和になっているとは言えません。戦争は絶えません。あの時、ジョン・レノンは本気で「PEACE」（平和）を願って発言していたのです。あと46年後、ビートルズの「来日100周年」を迎える時には、みなさんも今の私と近い年になります。どうか世界の全ての人々が「PEACE」（平和）を手にしてほしいと願っています。

